

同窓会会報
第8号

昭和42年12月15日
発行所 茨城県茨城市
内原町新田5965
鯉洲学園同窓会
印刷所 印接房
新いばらきタイムズ社

同窓会長就任に際して

同窓会会長
萩原 耕



ましが、二月完成を目指して現在工事をすすめております。また農民教育協会理事推薦の件は、井水学園理事長、四期の大沼氏が就任し、記念史も最近大変立派なものが刊行されました。それから記念植樹その他環境整備も大体計画通りに出来、同窓会支部組織強化も大変すすみました。

私はさる十一月三日に開催された、第八回同窓会大会において、再び会長に推され就任いたしました務原です。大会の席上においても御報告したことでありますが、さる昭和四十年十月十六日の第七回大会の決議事項は、幾多の障害がありました。しかし、会員各位の絶大な御協力によりまして、ほぼ完了乃至は完了の見通しがつきました。すなわち、記念会館の建設も当初の計画より規模は縮小いたし

【しかしながら、一方においては学園の財政基盤の確立や、施設、教授陣の充実、さらには、農業新聞等で御承知のとおり、学園発展の長期計画と密接な関係をもつと思われる中央協同組合学園設立問題等、同窓会として積極的な研究や、側面からの援助を要する重要課題があり、地方においては、記念会館建設資金の不足分達成や、同窓会組織、活動の強化充

実等の課題に直面しているわけであります。

このような事態に対処するには、正直のところ私では余力にも荷が重すぎるので、固く辞退したのですが、前述の課題は、第七回大会以来の懸案又は、関連事項であるところから、事情に詳しい現執行部をもって対処すべきであって、交替の時期ではないという意見が、茨城、東京両支部から強く打ち出されました、非力をも省りみずここに就任したのであります。このようなわけで、執行部は、職場の都合等で直に止むを得ない二、三の役員を交待したのみで、萩井、和田両

副会長を始め、殆んど再任されました。前述の諸問題に対処して活動を強力に展開するためには、何と云っても本会の財政基盤を確立すると共に、非常に手薄な中で、長期開校を骨折をいたしている事務局体制を整備するために、一日も早く専任事務職員を置くようにしたいと考えております。

このようなわけで会費を、一人年五百円、二カ年分で千円に増徴していただくことになりました。会費についても勿論本会の活動について各位の御協力を心からお願いし、執行部を代表してごあいさつ申し上げます。

☆☆☆☆☆

第八回同窓会大会挙行さる

☆☆☆☆☆

十一月三日、八十余人の会員出席者を迎えて盛大に行なわれました。

隔年毎の十一月三日を同窓会の「一大日」と決めたのは、第六回大会でありましたが、第七回大会は学園創立二十周年記念式典と歩調を合わせて、十月十六日（昭和四十年）に行なわれたため、大会日を決めてから十一月三日に開催されたのは今回が初めてでした。大会日が決ま

っているということもあり、また事務局の手薄もあって、第七回大会のときのようには三にわたる呼びかけができなかったため、予期したより出席者が少なかつたようです。

しかし、大会を含めた前後の雰囲気はいつもと少しも変わりなく、受付で名乗るなり、友部からのタクシーから降りるま

（次頁中段につづく）

副学園長就任挨拶

副学園長 石橋 幸雄



ます。もとより、私個人の方がどの程度にお役に立つかはわかりませんが、皆さんの意見もできるだけ聞き、各関係方面ともよく連絡をとりながら、私としてできるだけの努力ははらってみたいと思っています。

私はこのたび、はからずも副学園長を命ぜられ、常務理事に選任されました。副学園長の任務は新しく制定された職制では、学園の業務の管理、執行ということにあります。このような重責を私が担うことなど全く思いがけなかったことで、私には身にあまる大役です。しかし、命ぜられた以上はたとえ適材ではなくても、努力を尽さねばならないかと心に期しております。

学園はいま大きな問題をかかえて、その解決を迫られています。財政基盤の確立、陣容の充実、諸施設の整備など、どれ一つとっても容易ならぬ問題ばかりです。また近く設立される中央協同組合学園に対して、どのように対応してゆくかという点も重大な問題になってきてい

ます。もとより、私個人の方がどの程度にお役に立つかはわかりませんが、皆さんの意見もできるだけ聞き、各関係方面ともよく連絡をとりながら、私としてできるだけの努力ははらってみたいと思っています。

学園は、いま大切な時期にあるだけに、学園にとって重要なことは、お互いの結束だと思えます。それには相互の信頼と協力がもっとも大切なことだと思っています。そのような体制なり環境をととのえてゆくことも、また私の重要な任務と考えています。

私が皆さんのご期待にどの程度届くかはわかりませんが、学園の創立当初から学園とともに歩いてきた私にとって、最後の奉仕になりました。暇は出ていくつもりです。

私はご承知のように風さいもあがらず、質屋もありません。しかし、それだけに体裁などにかかわる必要もなく、身軽に動きまわれるかと思えます。学園のために私がいささかでもお役に立つことができれば幸いです。皆さんのご支援とご理解のほどをお願いいたします。

私の承知の通り、風さいもあがらず、質屋もありません。しかし、それだけに体裁などにかかわる必要もなく、身軽に動きまわれるかと思えます。学園のために私がいささかでもお役に立つことができれば幸いです。皆さんのご支援とご理解のほどをお願いいたします。

(前頁よりつづく)

での、よそよそしい顔とは打って変わり、いつしか二十年前、十年前に戻って、三年間または二年間におぼえたズーズー弁を連発し、肩といわず背中といわず、むやみに叩きあつて再会を喜びあい談笑する仲となりました。

また、今回は四期生会と八期生会が同時に開催され、大会の雰囲気は大いに盛り上げました。

大会は学園講堂において、午後一時桜井利昭(2・学園)副会長の開会宣言により幕をあげ、萩原耕(2・茨城)会長の挨拶、豊田学園長の来賓挨拶のあった後、早濤、議長に大竹秀夫(4・東京)副議長に鈴木光雄(8・茨城)、議事録署名人に大竹秀夫、福丸博房(9・東京)、山崎敏(15・茨城)、書記に坂本勝夫(22・茨城)、片田八雄子(在学生一年)を選任して議事に入りました。

議題

- 一、報告事項
 - (1) 昭和四一〜四二年度経過報告
 - (2) "
 - (3) " 事業報告
 - (4) " 決算報告
 - (5) " 監事報告
- 二、審議事項
 - (1) 昭和四一〜四二年度事業報告並びに決算承認の件

(2) 同窓会会則改正に関する件

(3) 昭和四三〜四四年度事業計画及び予算承認の件

(4) 中央協同組合学園設立計画等に関する諸問題

(5) 昭和四三〜四四年度役員選出

(6) 学園創立二十周年記念会館設立資金不足額の調達法について

議事は四時過ぎまで休憩なしで、熱心にしこも慎重審議されました。

大会終了後、八期生を大洗に送り出し会場を懇親会場に作り換え、学園教職員を迎えて五時から懇親会が開催されました。懇親会の雰囲気は今さらおぼえするまでもなく、御想像におまかせ致しますが、久しぶりには卒業以来始めて再会する同士ですから、席におとなしくしていようはずがなく、たちまち賑やかな派手な会合となりました。七時近く四期生が独自の会合をもつため、来賓宿舎に引き上げられましたが、この頃には大とら小とらもでるなど、夜遅くまで交歓しあいました。

その後各自決められた宿舎に引き上げましたが、その興奮はまださめやらず、布団の上にあぐらをかき、横になろうとせず、いつまでも昔の思い出に談笑していました。

翌四日は、八時三十分より十時まで、

副学園長との懇談会、十時より十三時まで支部長、代議員連絡協議会および、常任委員会が開かれました。十時以後一般同窓生は学内見学、学生寮訪問、在学生との交歓、学園教職員の會宅訪問など自由活動され、全部お帰りになつたのは午後四時頃でした。帰りはそれぞれ、まちまちになつたが、それぞれ見送りの者と堅く再会を約し、再び全国に散っていきました。

大会議事報告

昭和四十一年 四十二年

度経過報告・同事業報告

告・同決算報告

議事は西村事務局長による、昭和四十一年四十二年度経過報告、同事業報告、同決算報告に止まりました。続いて鈴木聖志氏(5・茨城)から監事報告があつた後、質疑応答に入つた。その主なものは中村恵一氏(4・埼玉)による四十一年四十二年度事務局長に手当を支給することの動議が提出されたことで、石井隆夫氏(4・茨城)による賛成意見、続いて小林道男氏(4・長野)より決算を修正するより新年予算に繰上支給して会員の感謝の意を表してはという補正意見が

加えられ、議長採決の結果提案通り可決され、報告事項の審議を終つた。

昭和四十一年 四十二年度経過報告・同事業報告・同決算報告承認の件

続いて、昭和四十一年四十二年度経過報告、同事業報告、同決算を全員一致で可決し、会則改正に関する討論に入つた。

昭和四十一年四十二年度一般会計決算報告書

支出の部

科目	予算額	決算額 (41・42年度)
名簿	30,000	26,500
補正	90,000	18,000
簿記	100,000	38,694
事務	100,000	128,844
旅費	58,000	90,640
会費	85,000	55,958
講習	50,000	69,000
名簿	200,000	180,000
予備	38,111	0
合計	751,111	607,636

収入の部

科目	予算額	決算額 (41・42年度)
前年度繰越	109,111	109,111
入会	400,000	221,720
金	50,000	147,650
利	90,000	78,900
代	2,000	2,349
収入	100,000	104,000
合計	751,111	663,730

昭和41~42年度 総収入 663,730
 総支出 607,636
 残額 (43年に繰越分) 56,094

20周年記念事業資金決算報告書 (42.9.30)

収入の部

会館(大教室)建設資金	1,742,848
記念史代	272,500
合計金額	2,015,348

支出の部

科目	40年	41年	42年	総合計
督促状印刷費	16,100	60,000	31,100	107,200
督促状発送費	17,320	18,730	41,710	77,760
事務	10,690	1,400	10,000	22,090
振替手数料	8,765	5,525	2,925	17,215
会議			5,630	5,630
旅費		20,000	37,000	57,000
雑	3,150	18,000		21,150
合計	56,025	123,655	128,365	308,045

総収入 2,015,348
 総支出 308,045
 残額 1,707,303 内 建設費分 1,434,803
 記念史代 272,500

会則改正に関する件

会則の改正は会費の値上げについてであつて、事務局より現在の年額二百円は二十九年に改定されたもので、その後の諸物価の高騰は同窓会活動の維持さえ困

金は全額基本金に繰り入れる。
 第二七条 正会員は毎年度の始め、会費として五〇〇円を納入せねばならぬ。

第二六条 入会金は一〇〇〇円とし、入会

したがつて、会則の会費に関する条文は次のようになる。

(第五章)

第二六条 入会金は一〇〇〇円とし、入会

のとき納める。入会

昭和41~42年度特別会計 入会会 決算報告書

入会会収入

41年度入学生 (177人)	88,500	} 実収入
42年度入学生 (178人)	89,000	
通信教育修了生 (31人)	15,500	
貸出金返済金	69,000	
合計	262,000	

入会会支出

一般会計へ貸出 104,000

(註) 昭和40年度末の493,000と193,000合計した686,000が入会会総額であり、全額基本金としてある。但しそのうち一般会計に貸出している分が59,000ある。従つて現在の基本金の内容は次の通りである。

定期預金(経済廣協)	465,000
電々公社債	100,000
現金(学園事務課預け)	62,000
一般会計に貸出し	59,000
合計	686,000

値にしており、またこれまで拡大発展してきた活動をさらに発展させるためには、五百円に改正する必要のある旨説明された。この中では特に事務局の強化、各都道府県支部組織の強化が強調された。また同様の趣旨で入会金も五百円から千円に値上げが提案された。原案は全員一致可決され、さらに議長より各支部長各会員に対し、会費の納入について格段の努力と配慮を要望された。

昭和四十三年と四十四年度事業

計画並びに予算案承認の件

本件は、四十一年と四十二年度事務局長手当を支給することを盛り込むこと、支出項目ならびに額は執行部に一任すること、予備費を引当金とすることで修正可決された。(事務局長手当は大会翌日の常任委員会で四八、〇〇〇円と決定され十一月十八日の常任委員会の席上、会長より、長年の大役御苦労様でした。という感謝の御言葉と共に贈呈された。)

昭和四十三年と四十四年度事業計画ならびに予算書は次の通りです。

(事業計画)

会員数三、〇〇〇人を擁する今日にもかかわらず、同窓会の組織、就中事務局の体制がきわめて貧弱であるため、本来の目的達成も覚束ない有様であります。これを改め、前進するには会員各位の協力によって、会の財政基礎を確立し事務局も強化し、全国的に組織づくりを推進する必要があると思考されます。

事業計画としては、四十三年度の前半に二十周年記念史の発行、記念会館大教室の完成を促進し、それと平行して各都道府県支部との連絡を密接にして参りたいと思ひます。特に四十三年度後半

から支部組織の強化に全力を挙げ、四十四年度にかけて従来の不備を全面的に改めた会員名簿も発行したいと思ひます。そうした同窓会活動を通じて、会員相互に授け合い、助まし合い、併せて学園発展のためにも、社会の進歩改善のためにも全力を尽したいと思ひます。次の予算書はそのような基本方針に基づいて、具体的な活動内容を含めたものです。

(予算書)

昭和43～44年度予算

入		出	
科 目	金額	科 目	金額
金入子代入	56,094	費徴費当費費費費費	180,000
金入子代入	1,000,000	行行行	300,000
金入子代入	80,000	行行行	180,000
金入子代入	60,000	行行行	48,000
金入子代入	2,000	行行行	200,000
		行行行	50,000
		行行行	80,000
		行行行	50,000
		行行行	59,000
		行行行	51,094
合 計	1,198,094	合 計	1,198,094

昭和四十三年と四十四年度 役員選出の件

役員選出は、推薦委員によって推薦された次の諸氏が満場一致で選出された。

- 会 長 荻原 耕 (2・茨城)
- 副会長 和田 文雄 (3・東京)
- 副会長 長 梶井 昭判 (2・学園)
- 兼常任委員長 石井 隆夫 (4・茨城)
- 常任委員 大場 茂男 (5・東京)
- 栗田 悦二 (6・茨城)
- 渡辺 正信 (7・茨城)
- 青木久良子 (16・東京)
- 須田 哲也 (16・茨城)
- 西村 典夫 (4・学園)
- 砂田 義雄 (5・学園)
- 坪野 敏美 (7・学園)
- 高橋 隆三 (9・学園)
- 田代 秀子 (7・学園)
- 小野口遊子 (22・学園)
- 武内 十郎 (4・東京)
- 鈴木 聖志 (5・茨城)
- 田中 茂秋 (8・茨城)

中央協同組合学園設立計画 等に関する諸問題

中央学園問題は、学園卒業生にとって最も重要なことで、関心のあるところで、和田副会長に特別筆をとって報告していただくことに致します。

鯉洲学園創立二十周年記念 事業資金追加募金について

まず会長より、二十周年記念事業資金

の募金については過去二カ年間にわたり同窓会の全組織を動員し、あらゆる手をつくしてその業に当たって参りました。その結果本年九月末日までに、会員総数三、二〇五人(在学生三三三人を含む)中一、七三四人(五四%)に御応募をいただき、当初募金目標二二〇万円に對し応募金額一七五万円余(八〇%)という非常によい成績を得ました。これ一重に母校の発展を願う会員諸氏の理解ある御協力の賜と執行部一同感謝しております。

一方、二十周年記念会館(大教室)建設計画は会報第七号で御知らせ致しましたように、同窓会、学園当局、農民教育協会事務局の三者において協議を重ねた結果、当初案を一部修正して九月ようやく最終決定をみました。

その建設費は、建築費一、八一七万円設備備品費二七〇万円、設計監督料四三万円、合計二、一三〇万円になり、その資金は国庫補助金一、二六〇万円、茨城県補助金三〇〇万円、二十周年記念会館建設基金三〇〇万円、学生父兄負担金一〇〇万円、合計一、九六〇万円であり、一七〇万円の不足を生ずることになりました。建設計画は研究に研究を重ねた結果作成したもので、これを縮さないし変更することは折角募金下された方々の意に

すぐわめものになるし、利用する立場から中途半端な建物になるといふことから、不足額一七〇万円は追加募金で充足することになりました。

協会では早速未応募各県連を中心に追加募金を開始しましたが、一七〇万円という募金はなまやさしいものではなく、同窓会に大幅な追加募金を要請してきたわけです。

同窓会としては、その諸計画が遅れ、募金が長びいたとは申せ、各方面の温かい御協力を得て、折角これまで盛り上げたものを見捨てるわけにはいかないと思ひ、その募金方法についてお計いするわけです。という提案説明があった後、討議の結果、一々十期の卒業生有志に特別寄付をお願いすることに決定致しました。そしてその方法は常任委員会に一任されることになりました(常任委員会で、十一月四日、十八日の二回にわたって有志の人選をし、十二月五日特別寄付の依頼状を発送致しました。同時に各支部長に未応募会員の応募督促と有志の特別寄付促進方の依頼を致しました)。

大会議事概要は以上の通りですが、なお当日の大会資料を各支部長宛送付しておきましたので、支部会その他の機会に是非御覧下さい。

「中央協同組合学園」

問題について

全国農協中央会に設けられた農協教育整備対策委員会は、さる八月二十二日「農協教育整備対策」についてとりまとめた。これは森全中会長の諮問に答申する形をとっているものである。

その答申全文については省略するが、関係のある部分の概略は一農協の使命達成のためには、農協役員、組合員を養成する農協教育体系を整備し、「(イ)組合員教育は五〇〇万組合員と、次代の組合員たる組合員の子弟。(ロ)一〇〇万の現役員、二〇万の職員を各系統農協で教育を実施する。(ハ)一般大衆教育は広報媒体を活用する。

「農協教育機関」は全中を経営主体として、中央協同組合学園を新設する。教育対象は(1)新人養成教育として県中央会長の推薦する者の中から(ア)本科コースとして高校卒または、これと同等以上の学力を有する者。(イ)専科コースとして新たに就職した短大卒以上の職員(2)在職者訓練教育としてクラス、コースを設ける、こととなっている。

この答申そのものには現在の農協短大

鯉淵学園、都道府県農協講習所等の取り扱いについての具体的な問題はふれられていないが、八月七日付の日本農業新聞では二つ三つの教育機関のうち農協短大および鯉淵学園を中央協同組合学園に吸収することを基本構想としている記事があった。その記事内容は答申文とほとんど異なるところはない。

その中で理由の一つに農協短大が都市計画による移転がきっかけであるともあげられているが、鯉淵学園との関係についてもその事実経過を明らかにしておく必要がある。

鯉淵学園の運営費用は国の補助と農協各連合会、その他農業団体(全中ととりまとめられている)からの助成及びび学生負担金によってまかなわれているが、農協各連合会では資金の負担について従来から種々議論、異論があった。また、最近その負担が年々々々かんで来ていることから教育の方向や、効果についても議論のあったところであるが、農協の担当者はいかにすれば鯉淵学園の経営に必要な経費が最良の方法でより多額に援助出来、

これまでの学園の成果を發展させることが可能かという善意に立ったものとしてまとめようとして努力していた。また学園二十周年記念事業の募金についても、団体に負担がかからないようにしてほしい旨の気持もあったが、実際募金は進められ、教室の建設も進んでいる。

四十二年春各連合会の負担については全中を通して一短大移転問題ともからみ、来年度四十三年の分担金については、今までのような形では引き継がれるとはいえない。短大のあり方も含め基本的に考えて、不徹底でなく、徹底した考えをもつこと、が農民教育協会に伝達され、さらに、農民教育協会理事会においてもその主旨がくりかえし伝えられ、この問題を検討することが組上にあげられ、農民教育協会の代表は全中とこの問題で話し合

い鯉淵学園への資金分担と教育体制について、全中の組織機関内で取り扱い、検討を加えることに諾意を示した。かくて、全中に農協教育整備対策委が発足して、その基本方針が出されたのである。

現在の鯉淵学園の教育は低賃金の教職員により、教育研究設備の老朽化と不備入学応募者の減少(若干の増加年はある)等近代的農業教育には適合しないのではないかと見られる状態にある。こ

れらを改善するために三、四年来いづつかの案は出されたが、いづれも、小田原評定的論議のすえ、陽の目を見ることなく、旧態依然の状態を続けている。

そうした中で、学園の大きな後援機関である農協団体が善意にもとずいて資金五十億円を用意して、教育整備をはからうとしているのである。さる十一月三日の同窓会大会で十分この方向を見極めながら学園の発展を求めるべきであると意見集約がなされた。

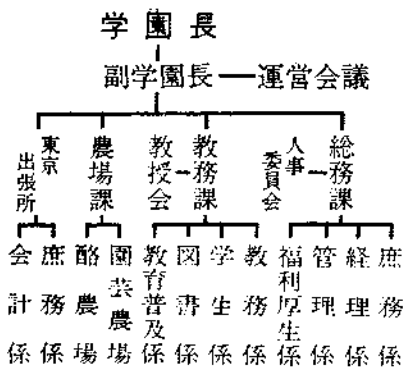
こうした経過は八月の時点で、同窓生に通知しなければならなかったが、個人的見解をさけるため、八月三十一日に開かれた農民教育協合理事会に答申についての経過の報告が全中からあったので、その議事録から農協対策委での詳細をお知らせしようとし、農民教育協会に議事録の提示を求めたが、ついに現在に至るまで何らの返答もなく、送付もないままになっている。

現在、鯉淵学園も、農協短大もそれぞれ来年度の学生募集を行なっている。また全国農協中央会は十一月末、来年度の事業計画や会長選任などがなされ、それにともなって「中央協同組合学園」の具体的設定が進められてゆくことになるといわれている。

学園業務の新執行体制成る

このことについては、会報第七号お知らせしたように、改善委員会を設けて審議してきたが、ようやく八月三十一日の理事会で決定をみました。

その主な点は、従来の農民教育協会事務局が廃止され、新しく理事長室と学園東京出張所が設けられるようになり、また学園事務機構では学園長の下部に新たに副学園長制がしかれ、事務課は総務課に、教育普及室が廃止され推拡係と通信教育係は合せて教育普及係として教務課内に所属することに、二農場は農場課一本にまとめられることになりました。これを一掃表示すれば、次のようになります。



また機構改革に伴う人事は次の通り発令されました。

教授 石橋 幸雄

副学園長を命ず

昭和四十二年九月一日

農民教育協合理事長 山添 利作

副学園長理事兼教授 石橋 幸雄

常務を委嘱する

学園長常務理事 教田 純

常務を解き理事を委嘱する

昭和四十二年十月二十三日

農民教育協会会長 東畑 精一

課長及び東京出張所長は次の通り発令されました。

総務課長 近 秀次

教務課長 築島 宏

農場課長 久米小十郎

東京出張所長 飯尾

(昭和四十二年 月 日付)

また係長並びに東京出張所係員は左記の通り任命されました。

総務課参与経理係長 河井 彌雄

庶務係長 近 秀次

教務課参与 学生補導担当 高石 直良

教務係長 西村 典夫

教育普及係長 坪野 敏美

農場課園芸農場長 桜井 昭利

酪農場長 砂田 義雄

東京出張所会計係長 奥村 祐三

庶務係 坂本 保一

信一郎 館野美智子

(昭和四十二年十一月一日付)

以上 四月からの懸案は形の上では一

応解決し整うことになりました。

一般人事移動

採用 田代 秀子

(42・11・1付教務課勤務)

採用 大出 節子

(42・11・1付教務課勤務)



「鯉洲学園二十年史」刊行さる

「鯉洲学園二十年史」がようやく発行された。記念事業の募金開始と同時に予約された方には二カ年余もおまたせしたことになります。この間、それらの



方々から幾度となく催促や、はげましを受けた。編集委員会としても絶望しかけたり、また思い直して執筆者に催促すること、二度ならず、互に顔をさけあう程に行なわれてきました。しかし何分にも互に日常業務の合間を縫っての資料調査、旧教職員への問い合わせ、原稿書きであったため、なかなか思うようにことが進まず、ついに今日に至ったわけです。

そんな苦しい陣痛をへて誕生しただけに出来てみるとその喜びには一入のものがありました。

内容は単なる記念史的なものでなく、学園創立当時の教育史としてまとめよう苦心されております。こまかに見れば不備不統一が目につかぬではありませんが、創立十周年時にも計画されながら、ついに発行できなかったものが、その後さらに資料がなくなり、記憶が薄らぎ、そしてさらに教職員陣容の弱体化した今日、よくこれまでまとめられたものと大いに感嘆させられます。

B六版三九六頁で箱入り。厚表紙は淡黄色に背が濃紺色、表紙と背には総務課職員岡久津信氏の筆になる金ばく題字、

源手に過ぎず地味に過ぎず、文派に装飾されております。表紙を開き中扉をめくると学園歌——はるかにかすむ筑波峰——、次いで口絵、整列した全学生（体育祭開会）、歴代会長・理事長・学園長・図書館、鯉洲学園創立二十周年式典、創立二十周年祝賀会の一コマ、創立二十周年祝賀会会景、祝賀会終了後の学園長訓上げが印刷されており、本文につながります。本文を目次よりみれば次の通りです。

- 鯉洲学園二十年史に題す
農民教育協会会長 東畑 精一
- 創立二十年史の刊行について
農民教育協会理事長 山澤 耕作
- 鯉洲学園二十年の歩み
学園長 鞍田 純

学生募集への協力御依頼

年の瀬もおしつさり、同窓諸兄何かと御多忙のことと存じます。学園の方も、諸兄御協力の二十年記念事業としての新校舎の骨格ができあがり、威容を見せて参りました。竣工も時間の問題というところで。

ところで、この新校舎を迎え入れる新一年生の募集期に入りました。昨年は諸兄の御協力のおかげで、四五〇人の応募を得、優秀な後輩を迎え入れることがで

創立二十周年記念事業

- 一 学園の沿革
- 二 旧職員名簿
- 三 学園の現在
- 四 教育の理念と実践
- 五 農場の運営と実践
- 六 園芸農場
- 七 臨農場
- 八 対外教育活動
- 九 卒業生の組織と活動
- 十 学生時代——各期卒業生の寄稿——
- 十一 諸統計・略年表

編集後期
印刷部款一、八〇〇、贈呈約六五〇部
既子約五五〇余部、残部六〇〇部。残部は一部七〇〇円(学園費し六〇〇円)の原価で希望者に販売されることになっております。

きました。本年も広い視野にたつて、農業経営や農村生活の近代化、あるいは農家経済の協同組織化等のために、将来活動しようとする優秀な人材を一人でも多く推薦下さるよう、御協力方がねがいたします。

なお、本年も筆記試験は行なわず、出身高校の内申を尊重して、文書選考だけで合格者を決定いたします。

(教務課長・築島忠)

十八年ぶりの再会……

四期生会開催される

一、待ちに待った四期生会、十一月三日未明、岩手の鷹野兄が到着、鳥取の中村兄は昨日到着しているという。やがて茨城、東京など近在の諸兄に交って、関西から駆けつけてくれた片山・越野・三橋、三兄の懐かしい顔も見える。白髪・光頭・恰幅と、長いこと会わずに、いとちよっと見当がつかぬ顔のあるのは当然か。しかし名乗り合ったとたん、「やあ」「お、」

二、出席者

阿部功(東京・築地青果K課長)、大竹秀夫(東京・農林省統計調査部係長)、越野昭二(大阪・スバ

の為に臨席下さった恩師、石橋、新井近、白田、内藤、松川の諸先生のご挨拶と思ひ出語。各人の近況報告。途中、田代のおぼあさんも見えて下さった。語り飲み、そして語って尽きるを知らず。はては仕事熱心の余り宣伝や商売ともなつて満場拍手喝采。文字どおり「ハッスル四期生会」に相応しい多士済々の集いであつた。

三、祝電

ゴセイカイヲシユクシコ
ンゴノゴハッテンヲイノリマス(佐賀・大曲栄・教員)、四キドウソウカイバン

・員の会長で当日どうしても抜けられず京都・藤井(今井)文信・近畿農政局構造改善部係長)。張切って出席する予定が、生憎公務の都合で欠席(熊本・早上満(三)夫・県庁果樹専門技術員)。集つた連中のハゲ加減やら下腹部肥満度やらを想像しています(香川・伊藤博・県農試病虫部技術員)。心ならずも諸兄ともすっかり首信を絶ってしまった現在です。が、まことに不つかしく、是非とも参加致したく思っています(東京・荒木秋男・陸上自衛隊業務学校行政幹部上級課程在学)。並木学園文化祭、市川製作所決算取締役会、知人の結婚式と重なつて残念ながら出席出来ず(東京・大沼淳・並木学園理事長)。都合悪く出席出来ず(長野・上島(飯島)博人・農業改良普及員)。県の農業共進会などの各種行事の準備、開催のため残念ながら(福島・佐藤忠司・県庁農政部主査)

「なんだお前か」と二十年の歳月は一へんに吹っこんで、互に肩をたたきあい手を握りあう。敗戦直後の最もひどい時に三年間起居を共にし、同じ釜の飯(いもの方が多かった)を喰つた仲ならではの麗しい光景が繰り展げられた。午後には、仙台から斉藤・井上・金子、長野から小林、はるばる高知から戸尾兄等が加わって、総勢二十余名、何れも一騎当千のつわものときたから、同窓会大会も終始四期生ムード。

典夫(鯉渕学園助教授)、小林道男(長野・県農協中央会課長)、斉藤中也(宮城・東北農政局計画部係長)、高橋延吉(東京レストランキャロル社長)、戸尾英夫(高知・県庁農業技術課係長)、中村健(東京・第一中央汽船K区事務長)、

四、欠席連絡

二十八年ぶりのなつかしい顔ぶれを夢にまで見ながら果せず誠に残念(北海道・佐藤存・道農協中央会日昭支部)。めんさいの収量調査にかり出されどうしても出席できず(青森・工

・収入五、〇〇〇(北海道・佐藤存氏)、合計三七、五〇〇

五、会計報告

収入計費収入三三、

六時から来賓會で懇親會、武内兄の司會で最初に、今は無き友、川崎鉄志、斉藤保夫、塚本雅一、安田良典、四兄の冥福を祈って全員起立黙禱。次いで夜分私ども

新田省三(東京・家の光協会課長)、本田茂(栃木・県庁林務部係長)、湯地春男(千葉・京葉信用組合貸付課長・懇親會は欠席)、稲田武弘(茨城・矢田部農

念願かなわず(徳島・上山(中川)忠・県庁普及教育係長)。過日八名で話し合いました(香川・和田(森)久夫・農林省統計調査事務所)。海外遠道回

支出計費代七、八九〇、酒香代二〇、九四〇、通信費(切手二〇〇枚、ハガキ一〇〇枚)三、二〇〇、学生アルバイト一、三〇〇、同窓会本部会計に繰入(趣意書・報告書の印刷その他の分として)

を祈って全員起立黙禱。次いで夜分私ども

新田省三(東京・家の光協会課長)、本田茂(栃木・県庁林務部係長)、湯地春男(千葉・京葉信用組合貸付課長・懇親會は欠席)、稲田武弘(茨城・矢田部農

念願かなわず(徳島・上山(中川)忠・県庁普及教育係長)。過日八名で話し合いました(香川・和田(森)久夫・農林省統計調査事務所)。海外遠道回

支出計費代七、八九〇、酒香代二〇、九四〇、通信費(切手二〇〇枚、ハガキ一〇〇枚)三、二〇〇、学生アルバイト一、三〇〇、同窓会本部会計に繰入(趣意書・報告書の印刷その他の分として)

五、一七〇、合計三七、五〇〇

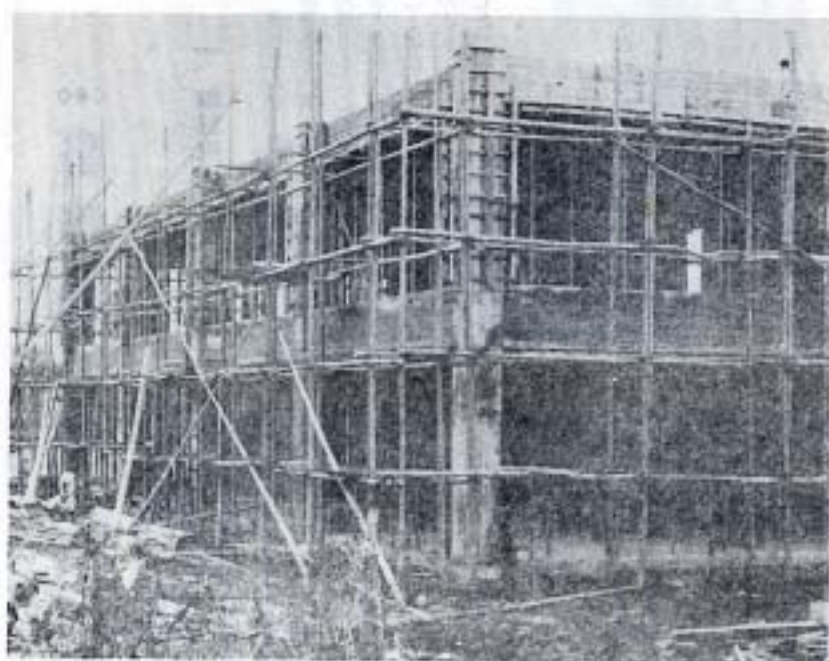
六、雑誌 第八回大会と同時開催のため準備、連絡等何かと行き届かず、ご迷惑をかけたました。懇親会の途中でも申して、各人の近況報告のいくつかを聞きま

らしましたので或は誤報があるかも知れませんが、何とか事情お取り下さって、ご迷惑の程を、では皆さん、よいお年をお迎え下さい。(四期生事務局長、磯田保四村典夫)

★☆☆★ 学園創立二十周年記念事業資金応募状況

★☆☆★

募金事業は今年末で、満二年を迎えようとしておりますが、その後も続々応募



完成も間近い

いたいております。前報では五月三十一日までの応募者掲載致しましたので今回は六月と九月の分につき掲載致します。

最近では再応募者が多く、特に福井県支部の十八期佐藤(旧朝倉) 穂栄氏は今回が四回目で、その再々合計で二万五千円の応募をいただき、執行部一同感謝しております。

北田道彦(通2・一、五〇〇) 吉田敬治(通3・五〇〇)再合計一、五〇〇(通)・村瀬健一(通3・五〇〇)再合計一、五〇〇(通)・山崎政治(通3・五〇〇)再合計一、五〇〇(通)・榎孝・本田正夫(通1・一、〇〇〇)・高橋吉教(13・五、〇〇〇)・山形・石井善兵衛(20・八〇〇)・佐藤満雄(通1・五〇〇) 富城・道藤弘司(14・二、六〇〇) 榎木・増田正一(通1・一、五〇〇) 角田武雄(通3・五〇〇)再合計一、五〇〇(通)・藤岡・渡辺久雄(通1・一、〇〇〇)・渡辺・田所守(9・一、五〇〇) 白土忠男(9・一、五〇〇)・川又二喜(通1・三〇〇)・菊地重雄(通1・五〇〇)・栗原・山下耕一(7・二、〇〇〇)・大竹秀夫(4・二、〇〇〇) 工藤忠(9・一、〇〇〇)・藤野・小池定子(15・一、〇〇〇)再合計二、〇〇〇(通)・新潟・山田芳彦(通3・三〇〇)再

合計二、三〇〇) 富山・前田章明(8・一、〇〇〇)・長田和夫(9・一、〇〇〇) 静岡・重田幹雄(通3・一、〇〇〇)再合計二、〇〇〇(通)・岐阜・池田静子(19・八〇〇)再合計一、八〇〇) 京都・浅尾俊郎(通2・一、〇〇〇)再合計二、〇〇〇)・奈良・山崎陽信(通3・五〇〇)再合計一、五〇〇(通) 兵庫・富田淳生(16・二、三〇〇)・小橋孝(通1・三〇〇)・広島・増田厚(通3・一、八〇〇)再合計二、八〇〇(通) 鳥取・長野和夫(通2・五〇〇)再合計一、五〇〇(通) 青森文(通3・三〇〇)再合計一、三〇〇)・徳島・津岡徳子(11・二、二〇〇) 上田忠(4・二、八〇〇)・長崎・坂本義博(4・二、二〇〇)再合計五、〇〇〇(通)・田川憲治(通1・一、〇〇〇) 森繁昭(通3・五〇〇)再合計一、五〇〇(通)・佐賀・東島定典(通2・一、五〇〇)再合計二、五〇〇(通)・石田義盛(4・五〇〇)・大分・松尾茂巳(4・二、五〇〇)・奈良秀一(7・二、五〇〇) 熊本・桑原克己(通1・一、三〇〇)・宮崎・満留勝男(15・一、〇〇〇)

◆◆事務局だより◆◆

一、事務局人事

西村さんが、長年事務局長として同窓会事務を一手に引き受け、苦しい財政を切盛りしてこられました。が、第八回同窓会大会後の常任委員会で坪野が交代することになりました。そして各部は夫々次のように担当していただくことになりました。

総務部長 砂田 義雄
組織部長 西村 典夫
情報部長 高橋 隆三

同窓会会報にこのように書きますと、部員こそおりませんが、いづれもたのしく受取っていただけたらと思います。が、実は各人二人前三人前の学園業務をかかえているうえの事務局長であり部長であります。大会で人権費予算を大幅に増やしていただきましたが、仲々至らぬ点も沢山出てくるかと思えます。会長、副会長、常任委員の方々にはもちろん会員諸君の御支援御協力を切にお願い致します。

二、会費の納入について

大会報告にもありますように、新年度は特に二十周年記念事業募金の達成、会員名簿の発行、各支部との連絡強化および、

各支部会への事務局員または学園教職員への派遣等重要な事業が計画されており、また中央協同組合学園に関する甚だ重要な問題をかかえておりますので、会員の皆様にはこれまでより以上の御協力を御願ひ致します。

納入方法は、各支部とも相談し納入し、納入方法は、各支部とも相談し納入して戴き易い方法を考えてゆきたいと思っております。今回はとりあえず、各人に振替用紙をお送り致しますので、会報を手にし次第折返し御送金下さいませ。うくれぐれもお願ひ致します。四十二年度決算は一応黒字になっておりますが、大会諸経費を差引いた今日、当座の運転資金にも不自由しております。赤祿々なことを申し上げましたが、何分の御配慮を重ねてお願い致します。会費は年額五〇〇円です。できれば二年分一、〇〇〇円をお送り下されば大変ありがたいと思えます。別記しましたように鯉湖学園二十年史を御希望の方は七〇〇円、合計一、七〇〇円お送り下さればおとりつぎ致します。

三、通信教育修了生

の皆さんへ

会報第七号で入会金ならびに会費の納入についてお願いを致しましたが、未だ納入されておられない方が相当あります

ので、至急納入下さるようお願い致します。

通信修了生の同窓会入会につきましても、当初事務手続きが遅れたり、また通信修了生の一部の方から若干の意見が出て、このように特別にお願いをしなればならないような事態が続いておるものと思ひます。

学習方法こそ本科生とは異なりましたが、卒業生は本科、通教の別なくその殆んど全員が、日本農業の最前線において同一目的「農業経営や農村生活の近代化或は農家経済の協同組織化」(学園要覧より引用)のために日夜奮闘している同志です。学習方法は各自の事情や立場によって異なりましたが、卒業した時点でこれを分けることは却って戦力の低下につながるものと思ひます。どうぞ、積極的に同窓会に合流下さって、その目的一本会は、会員相互の融和親睦をはかり、併せて鯉湖学園の発展と、農業及び農村生活の進歩改善に貢献するをもって目的とする。(会則、第二条)達成に邁進下さいませよう御願ひ致します。

四、会報原稿投稿のお願い

会報はこのタイプで発行するようになっています。第八号をお届けすることになります。しかし、いつも事務的な記事が

多くなり、事務局として甚だ恐縮しております。そこで、今後は会員諸君の気軽な投稿を大幅に掲載し、興味をもって読んでいただけるように育ててゆきたいと思っております。内容としては各自の仕事の紹介、農業及び農村生活の進歩改善に関する意見、学園、同窓会に対する意見、創作等々四角ばらずにどしどし投稿下さるよう御願ひ致します。

後記

十一月三日後の常任委員会
で事務局長をおおせつかり、続いて学園業務人事の発令、同窓会事務の引継ぎ、教育普及係としての事務引継ぎ、そして早速二十周年記念事業資金追加募金並びに同特別募金の依頼状作成及び發送準備・發送、学園通信教育テキスト作成、同スクーリング準備、見学者案内等々講義、特研生指導、組主任としての学生補導のあいまいに、しかもこの一カ月間に全ての会報発行であった。同窓会一般事務は学園組織内で消化してもらいうよう依頼すれば良いともいわれるが、高い段階で了解を得ても仲々そうはいかない。それぞれ手いっぱいの仕事をもっているからである。こんな状態で次号(六月発行予定)も大した約束はできそうもない。事務だよりも依頼致しましたが、投稿について格段の御協力をお願い致します。今日は十二月十四日、筑波山は灰色に変わり年の瀬の刻々迫り来るを感じます。全国の同窓生諸君、どうぞ御元気で良い年をお迎え下さい。